

木原小トピックス

11月18日（月）

ようこそ先輩（キャリア教育）
医師 石根周治さん



2019年（令和元年）11月19日（火曜日） 頁 五五 城（24）

救急医の仕事 児童学ぶ

三原 木原小でキャリア教育

三原市木原の木原小で18日、児童から始めたキャリア教育「只、回生系給出身で救急医」の一環、合同開催が、救急士と大田区立病院（救急科）の合同の一日の仕事について、山手町の医師石根周治さん、生徒と質疑応答を交わすなど、本誌も取材があった。本年、児童はスラットを児童が

児童に聴診器の使い方を教える石根さんA様

救急医が1日に15、20人の患者を診察し、海外へ災害支援にも行くこと説明を受けた。本物の聴診器を使って心臓の音を聞いた。心拍数を測ったりもした。救急医を日指さる半井和可子さん曰は「仕事の手が離れたら、あんなに楽しかった」と喜んでいた。

三小は児童から聴診器を取り、それにかまわしい地元の社会人に聴診器を依頼している。今後、聴診器や救急士から話を聞く予定。石根さんは「多岐な職種の話を通して、児童は夢を話してほしい」とエールを送った。（取材：佐藤）

福山・尾三

19日 ややまい 日 日本児童協会提供

P.M.2.5 日 丙子 報

ドクドク、心臓の音が聞こえる、生きとる音がする、と大歓声の児童。

学区の一中の卒業生で医師をされている石根周治さんに学校へ来ていただき、医師の仕事について、やりがいなど話してもらい、本物の聴診器で心臓の音を聴く体験もさせてもらいました。児童は「なぜ医師になったのか？」等、たくさんの質問をしていました。

救急医師として、これまで、北海道の孤島や徳之島やなどでの活動、フィリピンの救援活動などの体験の話をして、児童は命と向き合う厳しさを感じていました。また、チームで仕事をする大切さも学びました。夢を大きくふくらませました。

